

山行報告書

作成:2010年3月18日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	白瀬峠～奥の平 [鈴鹿御池岳]	目的[方法]	早春の花観賞及びルート研究
期間	2010年3月12日(金)	形態	木和田尾ヒスト
参加人数	1人+会員外1名		

行動記録: 晴れのち曇り

自宅(520)===豊田南 IC==桑名 IC ==コンビニ===藤原簡易P(645,725)--0:10--山口配水池 320m(735)
 --1:20--580m(8:55,915)--0:55--坂本谷分岐(1010,1030)--0:35--白瀬峠 1008m(1105)--0:25--真の谷
 (1130,1230)--1:25--奥の平(1355,1413)--0:17--真の谷(1440)--0:30--白瀬峠(1520,1530)--0:25--坂本谷分岐
 (1555)--0:45--鉄塔 R204(1640,1650)--0:40--藤原簡易P(1730,1815)===阿下喜温泉(1825,1930)===食事
 ===桑名 IC(2055)===豊田南 IC===自宅(2145)



日誌:

近づく山々になごり雪が付き、久しぶりの寒い朝で気持ちが弾む。藤原簡易 P は清潔なトイレもあり平日で数台のみ。スパッツを着け 30 分遅れて出発。畑の舗装路から林道に入り、柵のある綺麗な建物は上水道の配水量を調整する為の配水池で側溝には勢いよく水が流れていた。薄暗い植林の細い登山道を見落とさないようにしたい。閉塞感ある谷をしばらく歩くと単独行の男性に抜かれるも、ほどよいペースで高度を上げ 15cm の雪道には数日前についた下りのトレースが残っている。登りは送電線に沿って進み R202 の鉄塔に出ると、いなべ市が望める。歩いた先の坂本谷はまだまだ通行止めになっているが分岐の道標もある。白瀬峠へのトラバース道は尾根高巻いてトラバース、谷の上部から再び尾根を高巻く。夏道? スレて正解のようだ。パウダースノーで北面の難しさはないが厳冬期は県境稜線から峠に入りたい。峠を超え足跡のない真の谷下りはズボズボと雪を踏み抜き歩き辛い。テン場敵地を確認する時間がないのが残念。ダイレクト斜面を登る前に 1 張り分の谷横で熱々トマトスープリゾットをたっぷりお腹に入れ、ワカンを着けいざ出陣。40cm の湿雪は重く 45° の傾斜をひたすらラッセル。辛いが 45° だから登れる斜度だ。13時55分、誰もいない広～い雪原の端で2人だけの歓声をあげ、登り返しの目標物やルートを確認してから春雪の展望を楽しんだ。たっぷりついていた樹氷もなくなり、少し離れた青のドリーネは曇り空の下でグレーだった。1本杉(実際は4本)にコンパスを合わせ、「キャー」と言いながら真の谷まで一気に下る。白瀬への登り返しは尾根を歩いてドンビシヤだ。15時20分。(日が長くなって助かる)この先は朱色の新しいペンキマークがしっかりつき、鉄塔 R201 から子向井山経由で雪泥の尾根巡視路を下った。明瞭であるがしるしのない谷に入り、地形図から現在地を意識しながら配水池の手前が出る。名ガイドに感謝。

ログハウスの喫茶店に寄り、仙人掌の本を手にし、丁寧に入れられた香り高い珈琲をじっくり味わった。目的の早春の花観賞はテーブルの写真で終わる。車に戻って 11 時間履いた登山靴を脱ぐと「アッ」「下山報告」6時20分慌てて留守本部に連絡。「最後まで気を抜いてはいけませんよ」・・・と某歌人の声が聞こえてきたような気がした。

感想: 前日まで降った雪で早春の花に出会えなかったが、足跡のない概況や目標物など確認でき雪山攻略に向け1歩前進できた。次回の御池「雲の平」花ルートは「あの本」が導いてくれるのだろう。(・・・アヤツに献血だけはお許し願いたい)